

## 1. 県民意識調査の実施趣旨

今後の新型コロナウイルス感染症対策のため、LINEを活用して令和5年12月11日（月）～17日（日）の間、新型コロナウイルス感染症の罹患後症状を含む感染症対策等に関して県民の意識・行動に係る調査（第7回）を実施した。

## 2. 調査方法

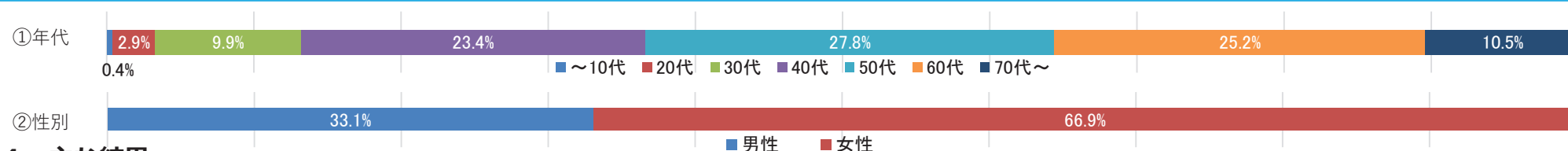
県公式LINEアカウントのフォロワー（約16万人）に対して調査を実施、うち有効回答数8,960人を集計

※直近の調査

第5回調査【令和3年10月1日（金）～3日（日）、有効回答数22,776人】、第6回調査【令和4年1月7日（金）～10日（月）、有効回答数27,790人】

第7回調査【令和5年12月11日（月）～17日（日）、有効回答数 8,960人】

## 3. アンケート調査回答者の属性



## 4. 主な結果

### （1）基本的な感染対策等に係る意識調査

- 常時マスクの着用の実施割合は、78%（第6回）→ 54%（第7回）で、コロナ禍前と同様に旅行すると回答した割合は、2%（第6回）→ 35%（第7回）となった。
- 感染に対する意識として、自身が感染する可能性が中等度以上あると回答した割合は、65%（第5回）→ 73%（第7回）だった一方、自身の感染が周囲に及ぼす影響の割合は、92%（第5回）→ 75%（第7回）となった。

### （2）ワクチン接種

- ワクチン接種を2回以上行ったと回答した人の割合は96%となった。

### （3）新型コロナウイルスへの感染

- コロナに罹患したと回答した人は3,284人（37%）となった。

### （4）こころの状態、ソーシャル・キャピタル

- 過去1か月間のこころの状態は、5点以上を示す割合が男性より女性で多い一方、ソーシャル・キャピタルが「低い」を示した割合は、男性で大きかった。

### （5）罹患後症状

- コロナ罹患後、他の疾患と説明がつかず、コロナ感染から3ヶ月たったあとも、少なくとも2ヵ月以上の症状の発症は、「倦怠感（35%）」、「咳嗽（34%）」、「咽頭痛（31%）」が多かった。現在も持続している症状（「保有率」）は、発症率よりも減少したが、「倦怠感（4%）」、「咳嗽（5%）」、「喀痰排出（4%）」、「健忘（4%）」を認めた。1個以上の罹患後の症状の発症は1,844人（56.2%）であり、保有は594人（18.1%）だった。
- 初期に罹患後症状を認めた人も、経過とともに症状が消失する一方、一定の割合で、罹患後症状が残存していた。

### （6）症状による医療機関の受診

- 罹患後の症状が継続している人のうち、医療機関を受診しなかったものが半数以上を占め、その理由として「どこに行けばいいかわからない」が37%だった。

### （7）症状による就労や就学への影響

- 罹患した人で、何らかの影響があった（「就業時間など短縮した（6%）」、「休職や休学をした（12%）」、「仕事や学校をやめた（1%）」の合計）と回答した人の割合は19%となった。